



楽々亭通信

第1号
令和2年9月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

楽々亭も第2回目を開催

することになりました

先月と同じく今月も地獄の話から始まりました。

皆さんに聞いてみると、地獄が有るといふ方と、地獄はこの世のことである世ではないといふ方等いろいろな意見が出ました。

そもそも私達はどんな気持ちでこの世を過ごしているのでしょうか？20代30代と、今高齢者と言われるようになってからでは違うと思うのですが、私が考えるには人は皆幸せを求めて日々暮らしているのではないのでしょうか。

幸せになりたい、苦しむことはゴメンだ、悲しいこともゴメンだ。幸せとはこれまた人それぞれ

れで、お金があれば幸せという人もあれば、高い地位を求める人もあれば、健康であれば幸せと、特に高齢者になればなるほど、お金より健康かもしれないしね。しかしどれも「無常」ですね、すなわちいつも変わらざる有るものではありませんね。

お金も、健康も、家族も、変わっていく儂いものですね。そうは思ってもその儂いものに執着するもの人間ですね。

また、お金がほしいと思っている人がある程度のお金ができ良かった、これで幸せになれると思っていたら、自分が病気になるに苦しまなければならなかったり、家族が突然亡くなり悲しみに暮れなければならなかったり

と常に色々困難なことが次から次と襲ってきます。どうすれば平穏な人生が送れるのでしょうか？自問自答しなければなりません。誰か其の答えを教えてくださいませんか？私などはいいつも叫んでいます。

幸せを求めて暮らしていても、それは手にできないものなのでしょうか？この世は「無常」だと諦めて生きて行きますか。業深き私などはそんなあきらめ（明らかに見る）という悟りを開いた人しか出来ないようなことは、とても出来ません。常に色々な物を求めてさまよい歩きます。苦しくて辛い道です。地獄ですね。

幸せを求めているのに、いつの間にか地獄に落ちているのです。求め過ぎるのですかね。大きな波、小さな波、いろいろな波が襲ってきますが、それにうまく乗れるようにサーフィンでも習

つてみましょうか。皆さん幸せにお過ごしください。

楽々亭ではこんなことを話して合せて行きたいと思っております。皆さんの経験や、見識を是非ご披露下さい。そして業深き私を幸せの国にお導き下さい。

2020年8月

暑い日にて

籠谷 弘

悟りの窓



迷いの窓



第2回楽々亭に 参加して

参加者は十一名。今回遠方の方は来られなくて寂しかったのですが、平日は仕事で来られない方など新しく5名の方が参加されました。会場の雰囲気は和気あいあいとして気楽に話せる会になったのは、2回目だからでしょうか、安堂さんのお話ぶりでしょうか、籠谷さんの人徳でしょうか、参加された方々の自由で積極的な姿勢のせいかもしれません。

安堂さんにとって「地獄」をテーマに話すのは滅多にないことで戸惑われたようです。

地獄は本当にあると思ふかどうかとの問いに、ないと思う、誰も行ったことがないんだからわからない、生きてる人が生き方を諭す為に作った話だろう、地獄のような経

験をしてきた、などが出されました。

そのあとの安堂さんのお話で心に残ったことを、私なりの受け止め方で書いてみます。

死後の旅では三途の川を渡り閻魔様の裁きを受けるということになっていくが、閻魔帳には一人一人の全てのこと書かれている。フリクシヨンペンで書かれたようなもので、人間の「業」は消したつもりでも消えることはない。閻魔様は全てを見抜く力を持っている。自分の「業」を背負って行くしかない。

キサゴータミーの話。死んだ我が子を生き返らせてほしいとお釈迦様に頼んで、ケシの粒五つを必死で探す、死人を出したくない家からという条件だったので手に入れることはできなかった。これはお釈迦様が、命あるものは生まれた時

から死ぬことが約束されているという「真実」をお話されている。

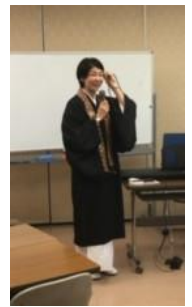
楽しいことはいつまでも続いてほしいと思うが絶対ずっと続くことはない。

最初はいいなあと思うようにできていても必ず色褪せていく。人に助けてもらっても最後は自分一人でやるしかない。

よく若い人が亡くなった時「代われるなら私が代わってやりたい」と言うが、代われんのはみんなわかっていて。誰にも代わってあげられんもの自分を持つている。

こんなお話を聴かせていただきました。教養や知識に邪魔されて？過ごしている日々。人間本来の姿を知らされて、そこに戻って生きていったらええんやと教えられました。

光木和子



安堂芳雅さん

子供の頃父親から「生きていくうちに悪い事をすると地獄に落ちて閻魔様の前に引き出され、行いに応じて色々な地獄に行く」と聞かされました。

これは悪い事をしてはいけないという戒めだと子供心に思い、あまり怖くはありませんでした。それだけ私達の身近に仏教的考え方があるのではと思います。

ホラー映画や幽霊の話の方がよほど怖かった。地獄は無いのではという方も多くて、生きている私達の心のありようがまさに地獄だと安堂さんは言われました。

今回の「楽々亭」は地獄のお話という事で戸惑いましたが安堂さんの語り

口にひかれ、今後どう生きていくのかを考え、また改めて仏教について学ぶ良い機会となりました。

前田美沙

初めて行事に参加させてもらいました。他の参加者の方々のお話を聴かせていただいて、皆さまご苦労された、あるいはされているのがよくわかりました。

また、安堂さんのお話がわかりやすく、もともと聴かせていただきたいと思いました。

次回以降も参加できれば、参加させていただきます。ありがとうございます。

大屋英城



健康川柳

なぜ勝てぬ 妻の無言
という武器に

シツプはる この時だけ
は良き夫婦

喧嘩して 三食作るア
ほらしさ

外す物 カツラ補聴器
メガネに歯

息子似の 医者でます
増す不安

ペットには何一つない
隠し事

初対面どっち若いか探
ってる

ついにした禁煙威張る
九十歳

「何食べたい」言って通
らぬリクエスト

楽々亭 第3回 9月の予定

9月26日(土)

西京区役所洛西支所会議室

1時30分~3時30分

7月に開催した場所です。

裏(西側)から入って下さい。

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。